

血小板パラメータを用いた EDTA 依存性血小板凝集の検出に関する検討

◎寺田 早良¹⁾、木村 美香¹⁾、村本 美紅¹⁾、川崎 晴希¹⁾、竹本 賢一¹⁾、大江 宏康¹⁾
金沢大学附属病院¹⁾

【背景】血小板数が低く計数された際、偽性低値の有無を短時間で判定し、臨床へ報告する必要がある。EDTA 依存性偽性血小板減少症 (EDP) を鑑別する際は、EDTA 以外の抗凝固剤を使用した採血管で追加採血を行い、EDTA 加血検体と比較する必要がある、時間や手間を要する点が問題となる。これまで我々は血小板各種パラメータ (PLT-I、PLT-F、IPF%、IPF 実数) における EDTA 加血と 3.2%クエン酸 Na 加血を比較し、EDP 群では非 EDP 群より IPF 実数および IPF%が高値となる結果を得た。

(令和 5 年度日臨技中部圏支部医学検査学会にて発表)

【目的】EDP の判断に有用な IPF 実数および IPF%のカットオフ値を設定する。

【方法】EDTA 加血と 3.2%クエン酸 Na 加血を用いた両方の血算が同時に採血された患者検体を対象として、多項目自動血球分析装置 XN-3100 (Sysmex 社) で血小板の各種パラメータを測定した。また、それらの症例を鏡検によって EDP 群と非 EDP 群に分類した。EDTA 加血と 3.2%クエン酸 Na 加血の両凝集症例、フィブリン析出症例は除外した。

対象症例 (n=99) に対して IPF 実数および IPF%の ROC 解析を用い、それぞれカットオフ値を算出した。

【結果】IPF%はカットオフ値 1.45%、感度 100%、特異度 15.4%、AUC 0.512 であった。IPF 実数はカットオフ値 $3.75 \times 10^3/\mu\text{L}$ 、感度 87.5%、特異度 66.7%、AUC 0.803 であった。さらに、AUC が高値を示した IPF 実数において、陰性的中率が 100%としたときのカットオフ値を $2.05 \times 10^3/\mu\text{L}$ とすると、感度が 100%、特異度 44.4%となった。

【考察】IPF 実数が $2.05 \times 10^3/\mu\text{L}$ 未満のときは EDP を否定できる可能性が示された。しかし、それより高値を示した場合は IPF 実数のみで EDP を判断できず、目視による評価を併用する必要があると考えられた。

【結語】EDP の検出における IPF 実数および IPF%のカットオフ値の設定を試みた。

連絡先 TEL 076-265-2000(内線 7180)